第Ⅰ部　調査結果の報告

1. 中学受験の選択

この章の要約

1. 都内で過熱ぎみの中学受験だが、子供の約35%が受験を予定していた。さらに成績別に見ると上位者の割合が高く、中学受験と成績との相関関係が非常に高いことがわかった。

2. 中学受験をする理由は、「行きたい中学があるから」という項目の割合が最も高かったが、母親に言われて受験した子供も多く、中学受験に関する母親の影響力がうかがわれる。

3. 受験したい中学（子供）、受けさせたい中学（親）に関する調査では性差で違いが見られた。

4. 子供は中学受験に一番役立つものは「塾」であるとし、たよりになる受験情報源として親たちも「塾の先生」をトップにあげている。「中学受験」と「進学塾」は切り離せない関係にあるようだ。通塾による子供の変化については次章で述べる。

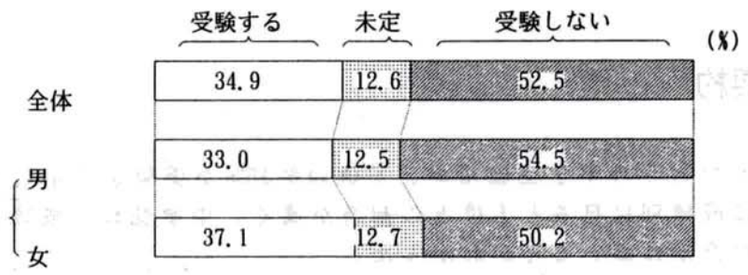
5. 中学受験について、子供たちは「いろいろ勉強ができておもしろい」など前向きな姿勢で取り組んでいるようだ。

6. 中学受験をさせない母親の理由としては「公立中学で十分」と答える割合が9割だった。それに対し、中学受験をさせる母親は、「教育方針や校風が良い」ことを最も重視している。

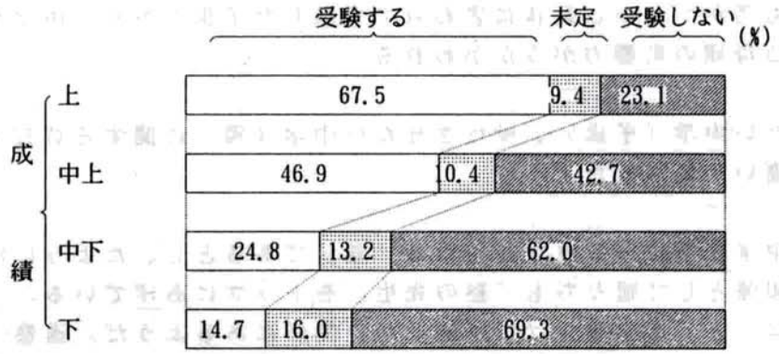
〔1〕中学受験をする子供たちはどのくらいいるか（子供調査）

調査対象となった東京都の小学6年生の34.9％が受験をしようと考えている。まだ決めていないを含めると、約5割が受験を意識していることになる。

＜図1－1＞　中学受験をする子供



＜図1－2＞　成績別に見た中学受験をする子供

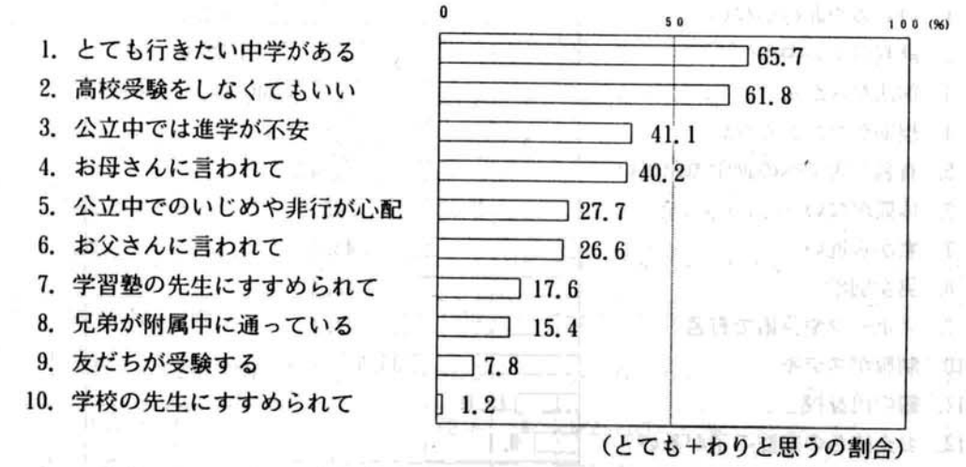


※ 男女別ではわずかながら女子のほうが受験をする割合が高い。
さらに成績別で見ると＜図1－2＞のグラフのとおりクラスで上位の67.5％が受験すると答えており、中学受験と成績との関連はかなり高いといえよう。

〔2〕なぜ中学受験をするのか（子供調査）

中学受験の理由のベスト5は1位「とても行きたい中学校がある（65.7％）」、2位「高校受験をしなくていい（61.8％）」、3位「公立中では進学が不安（41.1％）」、4位「お母さんにいわれて（40.2％）」、5位「公立中では、いじめや非行が心配（27.7％）」などである。

＜図1－3＞　中学受験をする理由

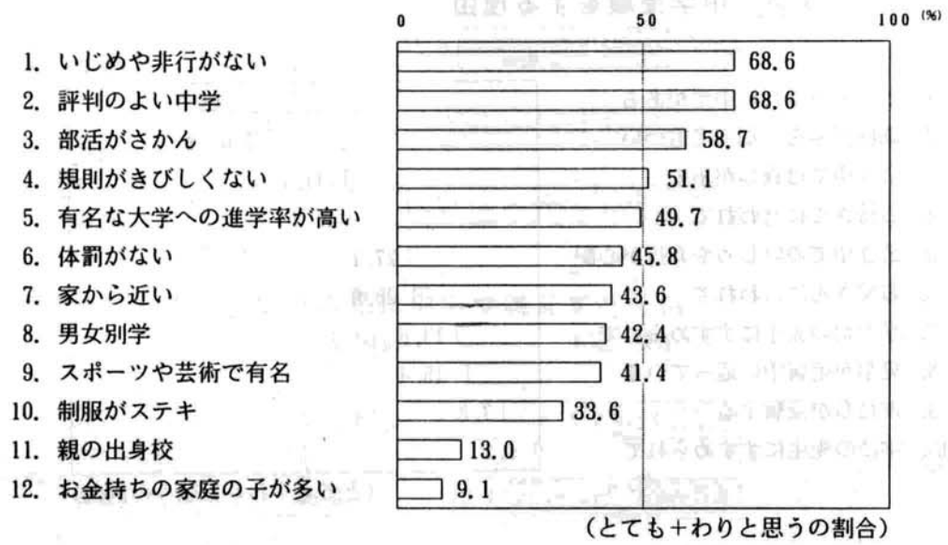


※ 「お母さんにいわれたから」と「お父さんにいわれたから」を比べると、14ポイントの差がある。中学受験に関して家庭での母親の影響力の大きさがうかがえる。また、「高校受験をしなくてもいい」「公立中への不安（進学、いじめ、非行など）」などが受験の理由となっていることも中学受験の特徴であろう。また「学校の先生にすすめられて」は 1.2％しかないことにも注目したい。

〔3〕受験したい中学はどんな中学か（子供調査）

受験したい中学校のベスト5は、1位「いじめや非行のない中学（68.6%）」2位「評判のよい中学（68.6%）」3位「部活がさかんな中学（58.7%）」4位「規則がきびしくない中学（51.1%）」5位「有名な大学への進学率の高い中学（49.7%）」である。

＜図1－4＞　受験したい中学はどんな学校か



（とても＋わりと思うの割合）

※「有名な大学への進学率（49.7%）」よりも「いじめや非行の心配がない中学（68.6%）」や「みんなの評判の良い中学校（68.6%）」が高いことに注目したい。また、図には省略したがその中でも「いじめや非行の心配がない中学」は「とてもそう思う」のパーセンテージも41.9%と最も高い。ひところよりいじめや非行の問題は沈静化したように見えるが、このことが第一の受験したい中学の要件となっているところに、この問題の根深さが感じられる。それとともに、中学受験のもつ問題点とも指摘されよう。

〔4〕性別に見た受験したい中学はどんな学校か（子供調査）

性別で見た場合、性差が明確な項目は「有名な大学への進学率の高い中学校（男子59.9%、女子39.6%）」で男子の方が20ポイント高い。また「制服がステキな中学校（女子53.5%、男子15.0%）」では女子の方が約40ポイント高い。

＜表1－1＞　受験したい中学はどんな学校か

	男子			女子	
順位	項目	%	順位	項目	%
1	評判のよい中学	70.2	1	いじめや非行のない中学	74.1
2	いじめや非行のない中学	63.5	2	評判のよい中学	67.0
3	＊有名な大学への進学率の高い中学	59.9	3	部活がさかんな中学	59.8
4	部活がさかんな中学	57.6	4	規則がきびしくない中学	53.5
5	規則がきびしくない中学	49.1	5	＊制服がステキな中学	53.5
6	家から近い中学	45.0	6	体罰がない中学	48.9
7	スポーツや芸術で有名な中学	43.2	7	男女別学の中学	47.9
8	体罰がない中学	42.8	8	家から近い中学	42.1
9	男女別学の中学	37.3	9	有名な大学への進学率の高い中学	39.6
10	親の出身中学	17.0	10	スポーツや芸術で有名な中学	39.6

（とても＋わりと思うの割合）

（注）　同ポイントの場合、「とても思う」の割合が高いものを上位とした。

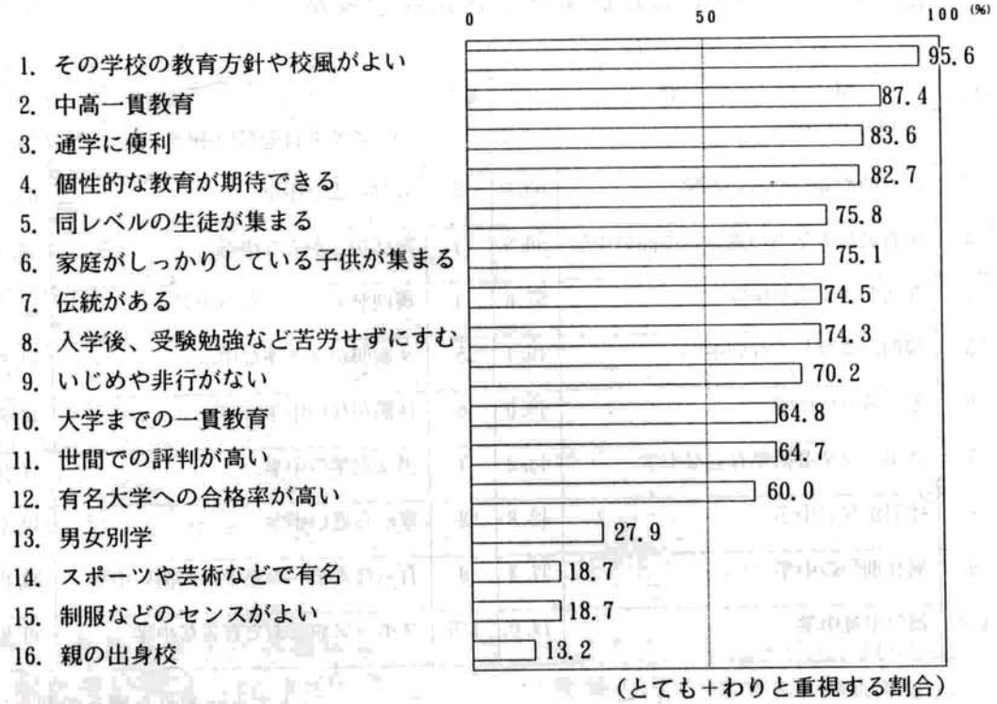
※ 私立中学は男女別学の形態をとっているところがほとんどなので、性別による受験したい中学のデータに注目したい。

男女とも評判がよくて、いじめや非行がなく、規則がきびしくない居心地の良い中学を求めているが、その他では、男子は将来の大学への進学率を、女子は制服（ファッション）を重視していることに違いが見られる。

〔5〕親にとっての受験校の決め手は何か（母親調査）

全体で見ると「教育方針や校風が良い学校」が受験決定の第一の要件となっている。「中高一貫教育」や「個性的な教育」を重視している割合も高い。

＜図１－５＞　受験校を決める際に重視すること



（とても＋わりと重視する割合）

※ 受験イコール学歴志向という見方で考えると「有名大学への合格率が高い」などがもっと上位であるべきだが、「教育方針や校風」が第一に重視されているのが、中学受験の大きな特徴と考えられる。また「同レベルの生徒が集まる」、「家庭がしっかりしている子供が多い」、「いじめや非行がない」などの理由が重視されていることも、現在の公立中学に対する不安の裏がえしとして見ることも出来よう。

〔6〕子供の性別と受験校（母親調査）

受験する子供が男の子か女の子かにより、受験校に対して重視する内容が異なる。男子を持つ親の重視するポイントは、中高一貫教育で伝統があり、有名大学への合格率が高いことである。
女子を持つ親の重視するポイントは、通学に便利で、入学後受験勉強に苦労しない、大学までの一貫教育という結果である。

＜表１－２＞　子供の性別による重視度の違い　（ベスト１０）

男子			女子		
順位	項目	%	順位	項目	%
1	学校の教育方針や校風がよい	95.9	1	学校の教育方針や校風がよい	95.4
2	中高一貫教育	90.5	2	通学に便利	86.2
3	個性的な教育が期待できる	85.4	3	中高一貫教育である	84.3
4	通学に便利	80.9	4	同レベルの生徒が集まる	80.0
5	いじめ・非行の心配がない	78.4	5	入学後受験勉強で苦労しない	79.9
6	家庭がしっかりしている子どもが集まる	77.1	6	個性的な教育が期待できる	76.2
7	同レベルの生徒が集まる	75.5	7	家庭がしっかりしている子どもが集まる	73.3
8	伝統がある	75.3	8	大学まで一貫教育である	70.2
9	有名大学への合格率が高い	68.8	9	いじめ・非行の心配がない	70.2
１０	入学後、受験勉強で苦労しない	68.5	１０	伝統がある	65.7

（とても＋わりと重視する割合）

（注）　同ポイントの場合、「とても思う」の割合が高いものを上位とした。

※ 子供の性の違いによって母親が中学を決める時に重視する内容が異る。
男子には入学してからも安定した環境の中で個性を磨き、勉強に励んでほしい、そして、将来は有名大学へ進学してほしいと望み、女子に対しては、入学後は受験で苦労することなく、よい環境の中で女性としての教養を身につけてほしい、と望んでいるようだ。

〔7〕受験の決定時期とイニシアチブをとった人

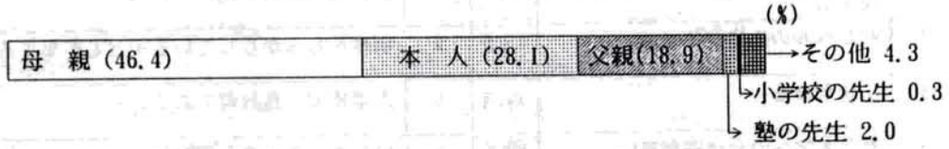
5年生は受験決定のピークである。全体では5年生までに受験を決める割合が高く、64.4%にものぼる。成績別にみると、上位の子供ほど早く受験を決めていて、4年生の時点ですでに41.6%をしめている。

＜表1－3＞　成績別に見た中学受験を決めた時期(子供調査)

(%)

		低学年	3年生	4年生	5年生	6年生	未定
	全体	4.8	8.5	18.0	33.1	19.3	16.3
成績	上位	6.7	12.4	22.5	41.6	10.1	6.7
成績	中上位	3.3	9.2	18.3	36.7	21.7	10.8
成績	中下位	5.2	7.0	17.4	26.9	23.5	20.0
成績	下位	4.4	0	11.1	28.9	17.8	37.8

＜図1－6＞　最初に中学受験を思った人(母親調査)



※ また中学受験を最初に思った（言い出した）人は＜図1－6＞のとおりである。

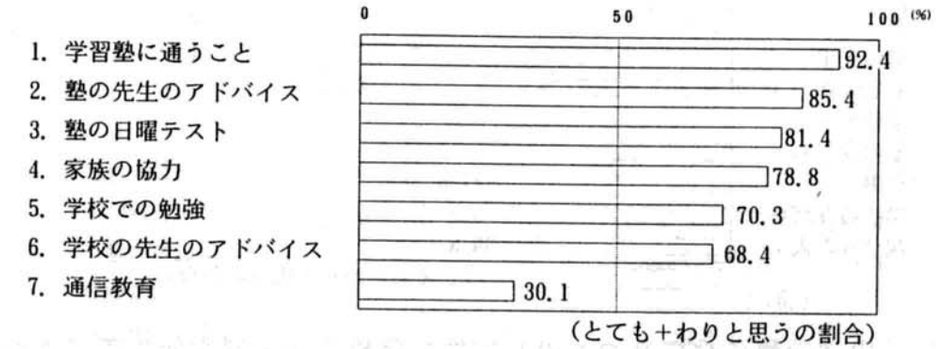
子供本人よりも母親がイニシアチブをとっているパーセンテージが高い。

父親との比較においても家庭での母親の影響力がうかがえる。これも中学受験の大きな特徴であろう。

〔8〕中学受験に役立つものは何か(子供調査)

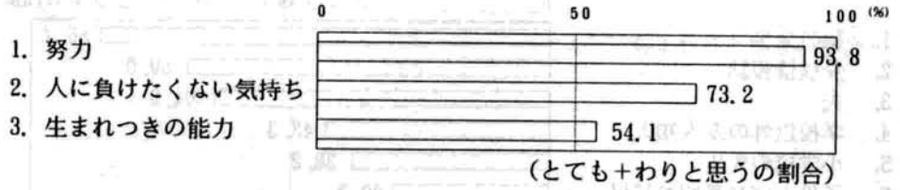
中学受験に役立つものは「塾」・「努力」である。受験を支えるものとして、「学習塾に通うこと」は必須の条件であろう。また、「塾の先生のアドバイス」を受けたり、「塾の日曜テスト」を受けたりすることも8割以上が役立つと答えている。

＜図1－7＞　中学受験に役立つこと（学習環境）



※ 「学校での勉強（70.3%）」「学校の先生のアドバイス（68.4%）」を大きく押えて、塾に関することがらが「役立つ」と答えていることは、中学受験の大きな特徴の一つである。公立の小学校では進路指導はしても、受験のための指導はしないことが基本であり、予測された結果でもある。

＜図1－8＞　中学受験に役立つこと（能力や精神力）

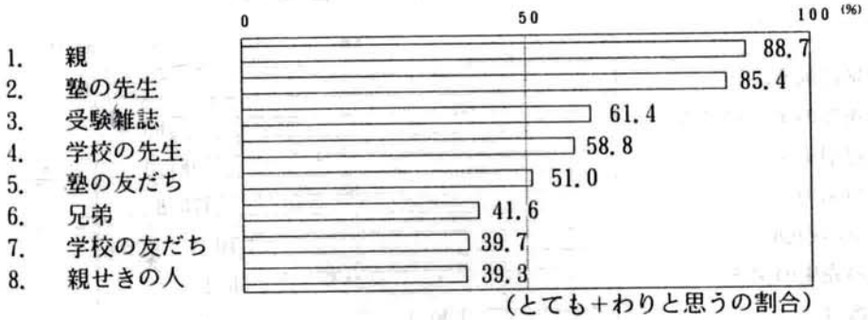


※ 中学受験では生まれつきの能力よりもやはり「努力（93.8%）」が必要とされ、また、「人に負けたくないという気持ち（73.2%）」も大切だと考えている。

〔9〕頼りになる受験情報源は

子供にとって頼りになるのは「親（88.7%）」の情報、次に「塾の先生（85.4%）」からの情報、そして「受験雑誌（61.4%）」である。

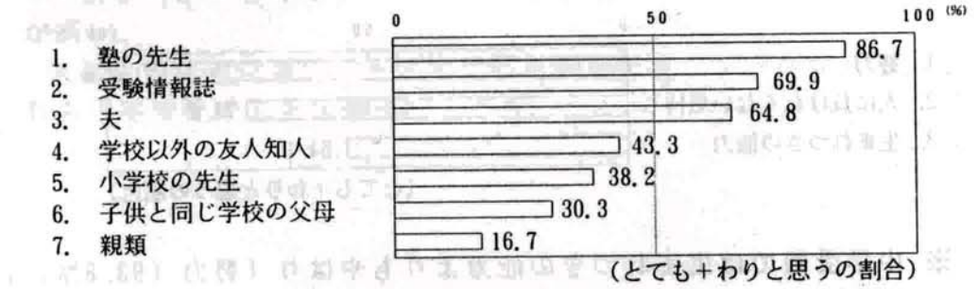
＜図１－９＞　頼りになる受験情報（子供調査）



※「中学受験に役に立つもの」では小学校での学習や先生のアドバイスより、塾での教育サービスのポイントが高かったが、「頼りになる受験情報」でも同じ傾向が見られる。

高校受験に比べ、中学受験に関して小学校の先生の果たす役割は低い。子供たちは頼りになる受験情報の第一番目に親を挙げているが、その親は何を頼りとしているのだろうか。

＜図１－１０＞　たよりになる受験情報（母親調査）



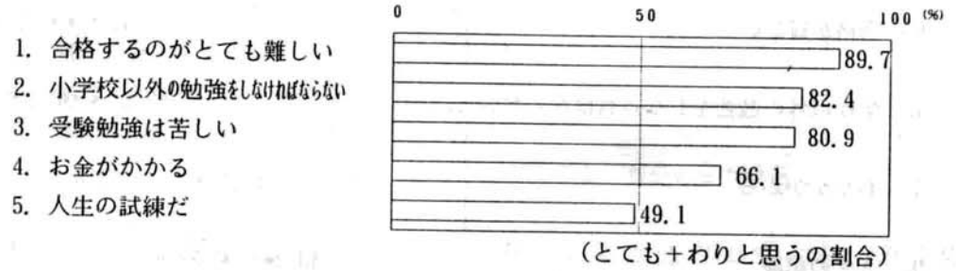
※ 子供から頼りにされている母親が信頼している受験情報とは、1位「塾の先生（86.7%）」2位「受験情報誌（69.9%）」3位「夫（64.8%）」である。母親の場合、小学校の先生からの情報を頼りにする割合は38.2%である。

〔10〕中学受験についてどう思うか（子供調査）

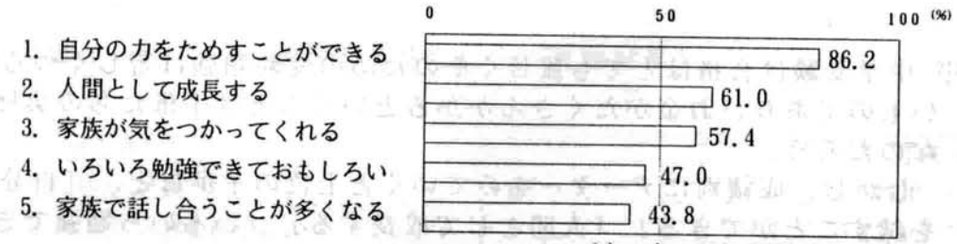
中学受験について、消極的なイメージから見ていくと、
1位「合格が難しい（89.7%）」
2位「小学校以外の勉強をしなければならない（82.4%）」
3位「受験勉強は苦しい（80.9%）」以上の項目が8割以上をしめている。

また、積極的なイメージでは「自分の力をためすことができる（86.2%）」という項目が8割以上をしめている。

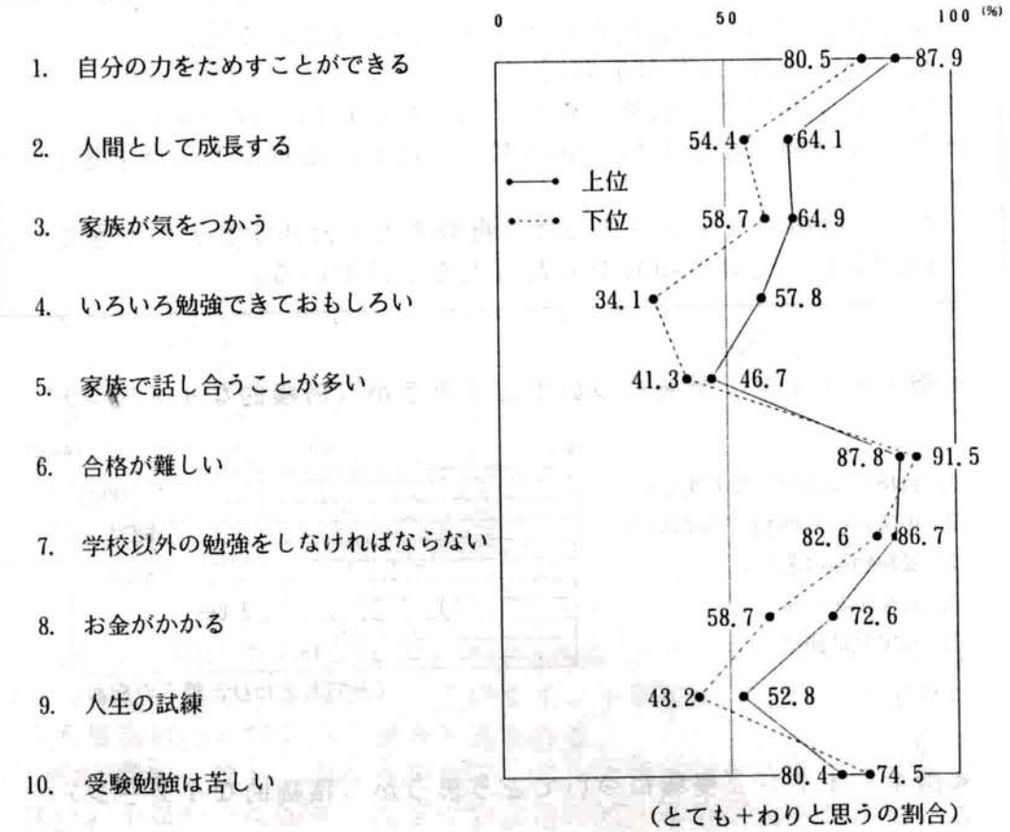
＜図１－１１＞　受験についてどう思うか（消極的なイメージ）



＜図１－１２＞　受験についてどう思うか（積極的なイメージ）



＜図１－１３＞　成績別に見た中学受験について思うこと（子供調査）



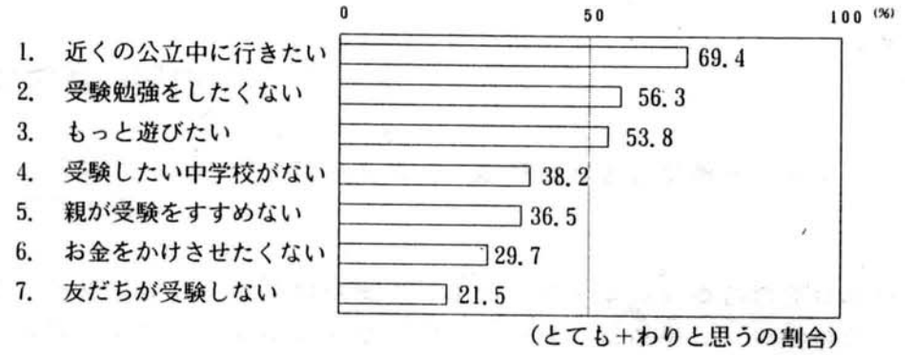
※ 中学受験は合格はとても難しくそのための受験勉強は苦しくつらいものであり、お金がたくさんかかるということは子供たちの実感なのだろう。

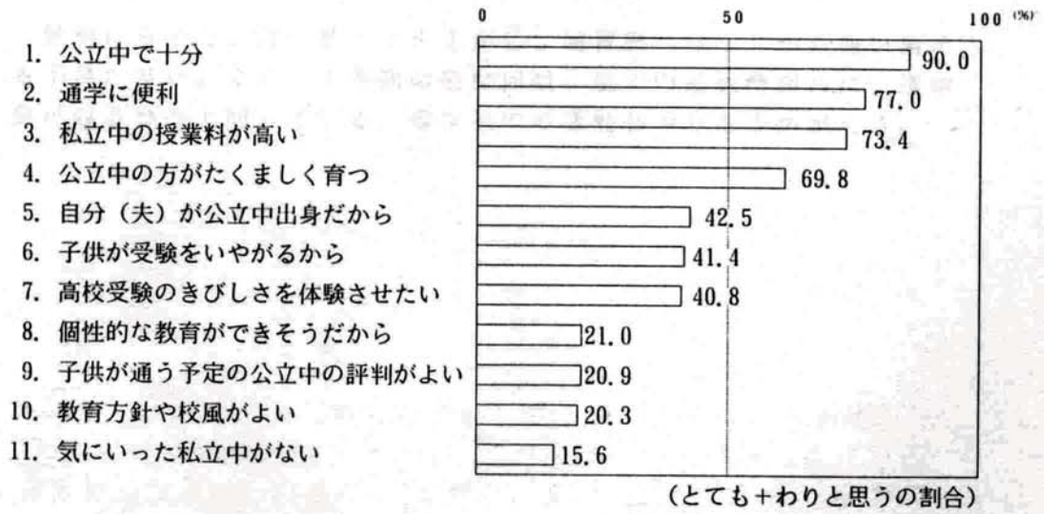
しかし、成績別にデーターをみていくと上位の子供ほど、「自分を試すことができる」「人間として成長する」「いろいろ勉強できておもしろい」と前向きな姿勢で中学受験に取り組んでいる様子がうかがえる。

〔11〕なぜ中学受験をしないのか（中学受験を希望しない子供と母親）

中学受験をしない理由としては、1.「近くの公立中に行きたい（69.4％）」2.「受験勉強をしたくない（56.3％）」3.「もっと遊びたいから（53.8％）」などがあげられる。

＜図１－１４＞　中学受験をしない理由（子供調査）



※ 一日何時間も受験勉強のためにあくせくと努力せずとも、近くの中学校に入学できるのだからそれで十分だ、というのが受験しない子供たちの考えのようである。

＜図１－１５＞　受験させない理由（母親調査）